

イシノウチツク 石野氏次 通稱讀岐、後八右衛門。父は利泉氏。大坂の役にも従ひ、祿六千五百石から八千石に至つたが、後事によりて改易せられ、子半右衛門氏慶に新知千五百石を賜はつた。然るに氏慶の子半右衛門に非行があつた爲、寛文九年その病死の後遺子忠四郎に相續の命がなかつた。

イシノウヂミツ 石野氏滿 通稱和泉。本姓は赤松、播州三木に居り、弓術の達者であつた。後前田利家に仕へ、人持組に列して七千七百石を賜はり、八王子・大聖寺の二役に功を立て、慶長十二年病死した。

イシノカラトタニ 石唐戸谷 鹿島郡赤藏山の西北溪谷で、大津川に注ぐ細流を出す。

イシノキ 石の木 石川郡石立にある五本の立石を、石の木とも石の木宮とも石の柱ともいふ。可觀小説に、『賀州中島の近所に立石の宮として神社あり。其社壇に立石五つあり。或年微妙公の御意にて、近邊百姓を以て被爲掘候處、二丈迄掘候へども石の根難知候。其段御開被成、最早掘申間敷候。以來も掘不申様にと被仰付候。』とあるが、今は社壇はなく、石の根も實際さまで深いものではない。石立の村名は文安五年六月の石清水宮八幡宮寄進狀に見えて、石の木が古く存在してゐたものであることは判るが、何の目的で建設せられたかは明らかでない。

イシノゲンベエ 石野源兵衛 父は右京進。源兵衛慶長五年前田利長に仕へ、四百石を領し、同十六年歿。子孫藩に世襲した。

イシノコエ 石の聲 一冊。序文に陰曹散人自題とある。毎年三月芭蕉追懷の爲に雅會を催すことを述べて、大阜の發句による歌仙

がある。陰曹散人は即ち大阜で、加賀人ではあるが傳不明である。この書の後半は暮柳舎希因に對する追悼句集だから、希因の歿した寛延三年の翌寶曆元年のものである。

イシノハシラ 石の柱 ↓イシノキ 石の木。

イシノヒデユキ 石野英之 通稱雅樂助。父は寛氏。文化五年遺知千五百五十石を襲ぎ、御奏者・公事場奉行・魚津在住・御算用場奉行・御近習御用に歴任し、天保六年六月八日江戸に於いて歿、齡五十。

イシノヒロウチ 石野寛氏 通稱喜三郎。多宮・八左衛門・源兵衛・主殿助。五兵衛氏遠の養子となつて五百五十石を襲ぎ、天明三年五百石を加へて人持末席に列し、五年亦五百石を加へて人持組に進んだが、六年八月遠慮を命ぜられて寛政元年十一月に免され、その後今石助等支配・御近習御用となり、文化五年七月歿した。

イシノマチ 石野町 羽咋郡邑知院内太田富永保に屬する部落。享祿四年七月の一宮惣分目納帳に、『壹段石町かはらけ出石町九郎兵衛。』又天正十九年十月十六日前田利家の印書に、『八十貳表四斗五升石町之余。』とある石町は、皆今の石野町である。

イシバシグチ 石橋口 北陸七國志天文廿一年朝倉宗滴が加賀に討入る條に、『菅生口崩て逃行間、玄蕃助景進城戸を開て、川崎山代まで追討にしける。石橋口には江沼郡の者八千許、南郷の城に居たりしが、諸口引退を見て、はうく山中を指て落行ける。』とある。石橋口は江沼郡大聖寺から南郷に入る方面とは推察せられるが、その場所は明白でない。

イシバシサモン 石橋左門 初め御居間方定番御歩であつたが、次いで新番となり、又新知百石を受けて組外に轉じ、次いで五十石を加へた。後御近習番となり、天保四年學校横目、十三年役銀奉行等に任ぜられた。

イシバタケ 石島 イシナバタケ 羽咋郡地保の内の小字。

イシハラテツジ 石原鐵次 慶長十五年の頃高岡・金澤に歌舞伎者と稱して晝夜横行した無頼の浪士があつたから、前田利長はそれらの六十三人を捕へしめた。鐵次はその首魁で、巧に亡命せんとしたが、大聖寺の關門で近藤大和の家人堀作兵衛の爲に斬殺せられた。

イシヒキマチ 石引町 金澤の町名。文祿元年尾山城築壘の巨石を戸室山から輓き出した道筋である爲この名が起つた。今は上中下に分かれてゐる。

イシボトケヤマ 石佛山 ↓ケツカイヤマ 潔界山。
イシマルキチノジョウ 石丸吉丞 鹿島檢校の子で、御射手となり、祿二百石を受け、元祿七年十二月歿。子孫世々藩に仕へた。

イシマルノフサ 石丸誠房 通稱文太夫。初名鈞雪。元祿六年前田吉徳の御居間坊主となり、享保二年御歩に進み、九年新番に列して百三十石を受け、十一年七十石を加へて組外に班し、十七年五十石を加へ、御大小將組に轉じ、御納戸奉行となり、延享三年六十四歳を以て歿。子孫藩に世襲した。

イシマルミヨウ 石丸名 應永廿一年四月十九日足利義持の倉光藤増丸に與へた教書に、加賀國玉鉾郷内石丸名とある。石川郡で

あるが、今この地名を存せぬ。
イシヤ 醫者 藩の祿を受ける醫者を典藥といひ、就中藩侯を診療するものは之を御馳と稱した。藩醫中獄舎に專屬するものは三ヶ所附といはれる。又八家人持の如き高祿の士に召抱へられるものを抱醫者といひ、その技量によつて二三十人扶持から四百石の秩祿を受けた。抱醫者は町醫者と同じく町住居の者が多く、その玄關には患者藩兼弟子詰所があり、之に隣つて床の間に神農氏の畫像をかけた診察兼調劑室があつた。往診の際は町醫者といへども概ね駕籠に乗つた。

イシヤシヨウジ 石屋小路 金澤の町名。藩政の時には深美氏邸の横町であつた。古へ名高い石工が居た故にこの名が起つたものであらう。

イシヤスミバ 石休場 イシヤスミバ 鳳至郡川原田郷に屬する部落。能登名跡志に、『往來より少し山手に石休場村といふ村あり。昔泰澄大師七村山粉川寺へ山上の時、石に休み給ふ腰懸石あり。今も小名に分けて石休場といふなり。』とある。

イシヨウデンシミツ 衣裳田清水 石川郡御供田に在る。元文二年の書上に、この村に清水二ヶ所あつて、いしやうでん清水・おばい清水といふと記し、龜尾記にはおばい清水をお花水と記して居る。

イシキ 石井 鳳至郡中町野郷に屬する部落。能登名跡志に、『小間生より町野川縁を登れば石井村近し。藏福院とて禪宗あり。』と記する。

イシンカン 威震館 ↓ソウウエウカン 壯猶館。